

※KPI…Key Performance Indicatorの略。政策ごとの達成すべき成果目標として設定するもの

No	事業名	事業の背景・概要	事業効果	平成28年度実績			平成29年度の取組状況	
				KPI※	実績値	事業費(円)	予算額(円)	事業内容、年度途中の実績など
1	津市農林水産物生産消費循環システム構築事業	<p>市内では県内最大の生産規模を誇る「キャベツ」や高級品として扱われる「茶」「ずいき」、また、甘みが好評の「なし」、海の恵みの「小女子」など魅力ある農林水産物が生産されているが、地域内外での需要につなげていないのが現状である。</p> <p>このため、津市の魅力ある農林水産物の地域内外への発信と、販路開拓などのマーケティングを生産者、JA、飲食店、消費者、行政で構成する「津市農林水産物利用促進協議会」が中心となって一体的、戦略的に推進する「津市農林水産物生産消費循環システム構築事業」を実施した。</p> <p>マーケティングに際しては、「津市農林水産物需要拡大事業」として、三重短期大学等の教育機関による市農林水産物を活用したレシビを活用し、生産者と飲食店等の結びつきを促進した。</p> <p>農林水産物の発信に際しては、市生産物を扱う市内店舗等を「津産津消推進店」、市外店舗等を「津市産農林水産物活用推進店」として登録し、登録店には市木材を活用した登録板を設置するとともに、津市の農林水産物PR用DVDの配布・活用など大々的なPRを展開した。</p> <p>上記の事業を展開することによって、市内で生産される農林水産物の生産・消費の結びつきの強化と安定的な流通ルートを作りつつ、新たな価値の掘り起こしと6次産業化の推進を図り、津市農林水産物の更なる発展を目指した。</p>	<p>市内の生産者と食材等活用事業者とのマッチングイベントの開催(生産者団体、食材活用事業者等48団体68人及び関係者約30人が参加)により、事業者と生産者の多様なネットワークの構築を促し、パン加工業者(夢の郷)と市内保育園(北口保育園)との販路確立と、2生産・1仲卸業者(いのさん農園、菅尾製茶、池田屋)と加工業者(夢の郷)、1生産者(アグリピア)と1事業者(ポルト)との販路が確立。さらに4事業者が6次産業化の取組を行い付加価値を高めた商品化を行った(高野尾ヨモギ会によるヨモギパウダー、水谷農園によるピクルス、つじ農園による菓子、工藤果樹園による氷菓子)。</p> <p>市外への販路確立においては9月と12月に東京で津市農林水産物利用促進協議会と生産者の出席による津市産農林水産物のPR販売イベントを開催、大々的にPRを行い東京の豚肉料理店と市内の生産者との販路が確立した。</p> <p>市内での津産津消、市外での津産他消推進の取組による効果は得られてきており、以降も引き続き積極的な市内農林水産物のPR・情報発信を行い津市産農林水産物の消費拡大による生産振興に繋げていく。</p>	津市産農林水産物を提供する「津産津消推進店」店舗数:30店舗	25	(総事業費) 14,064,387 (うち交付金 充当経費) 13,975,000	1,060,000	<p>引き続きHPやイベント、人的ネットワーク等を活用して募集中。本年度も津市産農林水産物の生産者と活用する事業者とのマッチングを開催し、津産津消の促進と推進店加入の加速化を図る。</p> <p>また、農林水産まつりの開催やマップ作製等、産直ネット津をはじめとする農産物産直所を支援することによって、産直所で農産物等を販売する零細農家の所得向上に繋げる取組を引き続き推進するとともに、津産津消推進店の活性化による市内産食材の需要増加を図る。</p>
2	伝統芸能と温泉資源を活用した住民活動モデル構築事業	<p>津市榊原町では高齢化や人口減少の傾向が著しく(平成27年10月1日現在、830世帯、1,758人、うち65歳以上の高齢者727人、高齢化率41.4%)、それらに対する危機感の高まりから、平成25年度には、自治会等が中心となって、地域の若者を公募し、「榊原未来会議」(平成25年6月設立、地域活性化プロジェクトチーム、15名)を立ち上げ、地域住民が自ら考え行動するアクションプラン「榊原地域活性化計画」を策定(平成26年3月)した。平成26年度からこの計画に基づいた実践に取り組み、地元協力者から山林を借り受け公園整備に着手するなど、地域の活性化に寄与している。このような中、次のような地域課題が浮き彫りとなってきた。</p> <p>(1) 榊原地域活性化計画の策定により、当該地域には、日本三名泉のひとつとして清少納言「枕草子」にも詠われた本市を代表する地域資源である「温泉」を始め、歴史、文化、森林など多岐の資源に恵まれているが、温泉を始め、どれも今一つまちづくりに活かされていないこと。</p> <p>(2) とりわけ「温泉」については、本市における宿泊型観光の拠点地域に位置付けられているが、最盛期には約82万4,000人(平成3年)あった入込客数が、近年は、旅館の相次ぐ廃業等により3分の1の約31万9,000人(平成26年)となり、地域の衰退につながっているにも関わらず、有効な手立てを打ち出せていないこと。</p> <p>(3) 地域活動においては、人口減少や高齢化等により、各団体の構成員が重複かつ固定化しており、新たなリーダーの輩出や地域の活力再生に向けた時代に合った体制づくりが急務となっていること。</p> <p>そこで、「榊原未来会議」が中心となり、かつての地域の伝統芸能である「かんこ踊り」の復活・伝承に取り組むことで地域の絆を強固なものとし、もって地域住民総参加のもと、主要な地域資源である「温泉」を軸とした地域の活性化に取り組むこと(温泉の効能を活かしたヘルスツーリズムの展開や農業・森林・歴史・史跡等を活用したニューツーリズムの実施)で、交流人口の拡大等の地域活性化を図るとともに、本事業を先駆的モデルとし、広大な市場を有する本市が持つ様々な豊富な資源を活用して他地域へも拡大させることを目指した。</p>	<p>①かんこ踊りの保存継承活動により、 ・休止していた地区では、継承についての話し合いが始まる。 ・踊りを継承していた1区に加え、休止していた3区が平成30年に復活することを決める。 ・これまでは各区ごとに、踊り、笛、太鼓等の指導・練習を行っていたが、指導者の高齢化など指導者不足の区もあり、区を超えて応援しあう。また、後継者育成のための子どもたちの関心を高める取組も協力して行う。 など、榊原地域の中で区間、世代間の交流、絆が深まる事象が起きた。</p> <p>②検証した「美肌のお湯」とされる温泉の良さを、各旅館がPRポイントとして絞込み湯治プラン等を企画して誘客に取り組むとともに、榊原未来会議が企画するノルディック、麦藁細工製作体験などの事業に、入浴・食事をセットにして、目的型・時間消費型のツーリズムの実施につながっている。</p> <p>③組織的な成果は、自治会、温泉振興協会と若手グループの榊原未来会議のメンバーが、協力し合って取り組んできたことによって、ベテランから若者までが一丸となって取り組む土台が地域にできたことである。 また、地域住民・団体に対しても平成29年5月28日に地元報告会を開催し、取組への協力、参加を呼びかけ、地域の人々のつながりが深められている。</p>	榊原温泉地域の観光入込客:350,000人	320,210人 見込 ※H29年1～3月分 については現在集計中のため	(総事業費) 29,195,025 (うち交付金 充当経費) 29,191,000	11,108,000 (うち608,000 円は新規)	<p>榊原温泉振興協会補助金 10,000,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光集客事業(ホームページ、ブログ、広告、パンフレット等による情報発信) ・三重テラス「ついで」をはじめ、大都市圏での観光PR ・観光誘客事業(ほたる祭り、ひな祭り事業)の実施 ・地元集客イベント参加 ・観光案内看板等の管理 ・環境整備(主要道路の植栽、里山整備等) ・特産品研究など <p>榊原未来会議補助金 1,108,000円</p> <p>内訳 地域かがやきプログラム事業補助金 500,000円 (農園事業、川守プロジェクト、木工教室、広場整備)</p> <p>地方創生に向けてがんばる地域応援事業 608,000円(新規) (専門家を招致し、関与する多くの団体の調整、多数のツーリズム事業をトータルで採算性を見出していくこと、子どもの参加を組込み事業を行っていくこと等について指導を得る。)</p> <p>【実施(予定)事業/ツーリズム開発した5事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・榊原ノルディック(6月18日) ・麦わら細工製作体験(地域外での開催を通じて地域をPR/4月22日、5月14日) ・農園事業(5月21日、7月30日、11月頃) ・川守プロジェクト(川掃除と川遊び体験) ・木工教室(8月11日) ほか

No	事業名	事業の背景・概要	事業効果	平成28年度実績			平成29年度の取組状況	
				KPI※	実績値	事業費(円)	予算額(円)	事業内容、年度途中の実績など
3	【三重県、県内15市町による広域連携事業】 「ええとこやんか三重」県と市町の移住促進事業	<p>三重県では、移住に関する様々な相談をワンストップで受ける拠点として、平成27年4月、東京に「ええとこやんか三重移住相談センター」を開設した。その中で、移住希望者のニーズは人それぞれであり、画一的な移住モデルの提供ではなく、様々な移住希望者のニーズに応えるため、オール三重として様々なライフスタイルの選択肢を示していく必要性が明らかになってきた。また、受入側の視点に立った対応ではなく、移住希望者の側に立った地域やライフスタイルの提案を行うには、県内市町で移住者を取り合うのではなく、移住希望者のニーズに合わせて相互に移住希望者を紹介することが必要である。</p> <p>そのために、県と市町が一体となり、それぞれの役割分担の下、事業を実施することとし、県は、オール三重としての情報発信を行うため、都市部で移住相談のワンストップ窓口を運営し、戦略的なセミナー等のイベントを都市部で開催するとともに、県内での受入体制のレベルアップを図り、お互いの情報を共有するための研修会等を開催した。</p> <p>市町は、それぞれの町の強みを生かしたライフスタイルを検討し、都市部において県が行う相談会や移住フェアの場でPRを行った。また、地域住民等と一体となり、各市町が移住体験ツアーを実施したり、一定の地域でまとめて体験ツアーの広報を実施したりするなどして、移住希望者が各市町のライフスタイルを体験できるような土壌を作った。</p> <p>【事業における津市の役割】 津市美杉地域に関心を持った田舎暮らし希望者をソフト面、ハード面双方からサポートし、都市住民等の移住・交流を推進して、美杉地域への移住を促進した。</p>	<p>平成28年度の津市空き家情報バンクの利用登録者は39人、うち県外登録者は21人であった。物件登録数は8件新規登録された。</p> <p>平成28年度から初めて平日相談に来ることができない方に対して休日相談窓口を道の駅美杉で開催した。休日相談窓口では津市田舎暮らしアドバイザーが相談を受け、地元の人ならではの田舎暮らしについてのアドバイスや林業などの職業相談を行った。6回の開催で14組21人が相談にお越しいただいた。休日相談窓口を利用して津市空き家情報バンクに利用登録した件数は1組。休日相談窓口で相談後、津市空き家情報バンクを利用して空き家を購入した件数は3組であった。</p> <p>都市部でのPRは東京1回、大阪2回行い、相談件数は合計11組18人であった。</p> <p>美杉の暮らし探訪では津市空き家情報バンク登録物件の見学と移住相談を行い、6組13人が参加した。</p> <p>美杉の魅力発見塾では地元団体の太郎生地域づくり協議会に委託して、たろっと三国屋という古民家を改修して民宿を営んでいる施設を拠点に、参加者に美杉地域で農業体験や森林セラピー体験などを体験してもらった。平成28年度は22組100人が参加した。</p> <p>平成28年度の津市空き家情報バンクにおける媒介成立件数は8件で平成21年度から取組みを開始してから最多実績であった。</p> <p>以上のことから、当該事業は美杉地域における移住・交流促進に大きな効果があった。</p>	<p>空き家情報バンクにおける媒介成立件数:4件</p>	8件	<p>(総事業費) 1,163,728</p> <p>(うち交付金 充当経費) 1,163,728</p>	<p>1,518,000 (PRに伴う旅費・報償金・会場使用料、食糧費、補助金を除く)</p>	<p>【事業内容】 空き家情報バンクの継続。三重県と連携して都市部でのPR実施。休日相談窓口の実施。空き家見学会、職業相談等の実施。 美杉の魅力発見塾については、太郎生地域づくり協議会へ委託。たろっと三国屋を拠点に、美杉地域における豊かな自然と歴史資源、地域・民間活力を活用し、都市住民に田舎暮らし(宿泊・農作業体験・自然散策等)を体験させる。体験を通じて、定住へと繋げることを目指し、地域の活性化・津市の元気づくりの推進を図る。</p> <p>【実績(平成29年5月末時点)】 ・津市空き家情報バンク利用登録者8人(内県外登録者4人) ・津市空き家情報バンク登録物件 1件 ・休日相談窓口(4回 相談件数:6組12人) ・美杉の魅力発見塾参加数(3組 27人)</p>